



□本號口繪、一番上にあるは、沼田町より見たる赤城山の夕景、次は、沼山峠の下尾瀬湖畔より見たる燧ヶ岳、タテ繪は、追貝の溪谷にして、下を流るゝは片品川、其傍の横繪は、尾瀬湖北岸堂小屋附近、最下の一圖は尾瀬ヶ原に候

□コマ繪第一は、歩行かぬうちから足に豆をこしらへた人、第二は、金精峠で悲鳴を上げた人、第三は、尾瀬ヶ原行に屢々深泥に墜落した人、第四は、繪にある通り日光劍ヶ峯で迂つた人、第五は、一行を尾瀬沼へ導ひた馬方に御座候。

□本號は郵送料金貳錢を要し候間御注意ありたく候

近 事

△日本水彩畫會十月例會は二十五日開會、午前は大下氏の水彩畫材料についての注意といへる講話あり、午後より、出品畫に對して河合、石井、大下諸氏の批評あり、水彩畫に對する互選の結果、一等赤城泰舒氏、

二等相田寅彦氏、佐藤武造氏にして、デッサンは、夜の部岡田武彦氏一等に選拔せられ何れも賞品を頒たれ、それより茶話會にうつり、二三の餘興ありて五時頃散會したり。△松原氏主催洋畫展覽會は、前號に本月とせしが前月の誤植なり。

△織田東禹氏は、約三ヶ月間東北地方漫遊中の作品百餘點を、本月二三兩日數寄屋橋東京地學協會樓上に陳列して公衆の展覽に供せられたり、陳列中の水彩畫は何れもスケツチのみなれど、よく其地方色も現はれて面白きもの多かりし。

紹 介

◎ラフェル商會製水彩繪具各種

京都二條寺町森親子商會

ロンドンなる同商會の發賣品にして、美術家用と特に記入しあり、何れもチューブ入にして、量はニュートン製と異ならず、代價も殆ど同様なるが、品質は稍々優れるが如し、最も變色するや否は時日の問題なれば、こゝには證明しがたし。

◎やまと美術 四六四倍八頁の小雜誌にし

て専ら本邦古美術に就て論議せらるゝ項目多し關西に於ける唯一の美術新報として健全なる發展を望む(月一回一部六錢、奈良市登大路町、やまと美術社)

問に答ふ

■普通スケツチに最も必要な繪具名を知りたし(樋口敏子)◎チャイニスホワイト、ガンボーヂ、エローオークル、ヴァーミリオン、クリムソンレーキ、ライトレット、バアントシナ、インヂゴ、コバルト、等は缺くべからず此他にレモンエロー、オリイヴグリーン、エメラルドグリーン、ウルトラマリン、ブラオンマダー、セピア等あらは充分■一 寫生の時畫架の代りに膝の上にて用ふる二枚折の如きものは何かニ 小笠原紀行は終りしか(佐藤周子)◎一 意味不明、或は畫囊を指すにやニ まだ終らず、序に其他二三の間は答へかれます■投稿の繪畫の大ひさを問ふ(近藤)◎中繪としては凡そハガキ大、最も繪がよければ大きくともとる、寫真版用は繪の小を問はず